

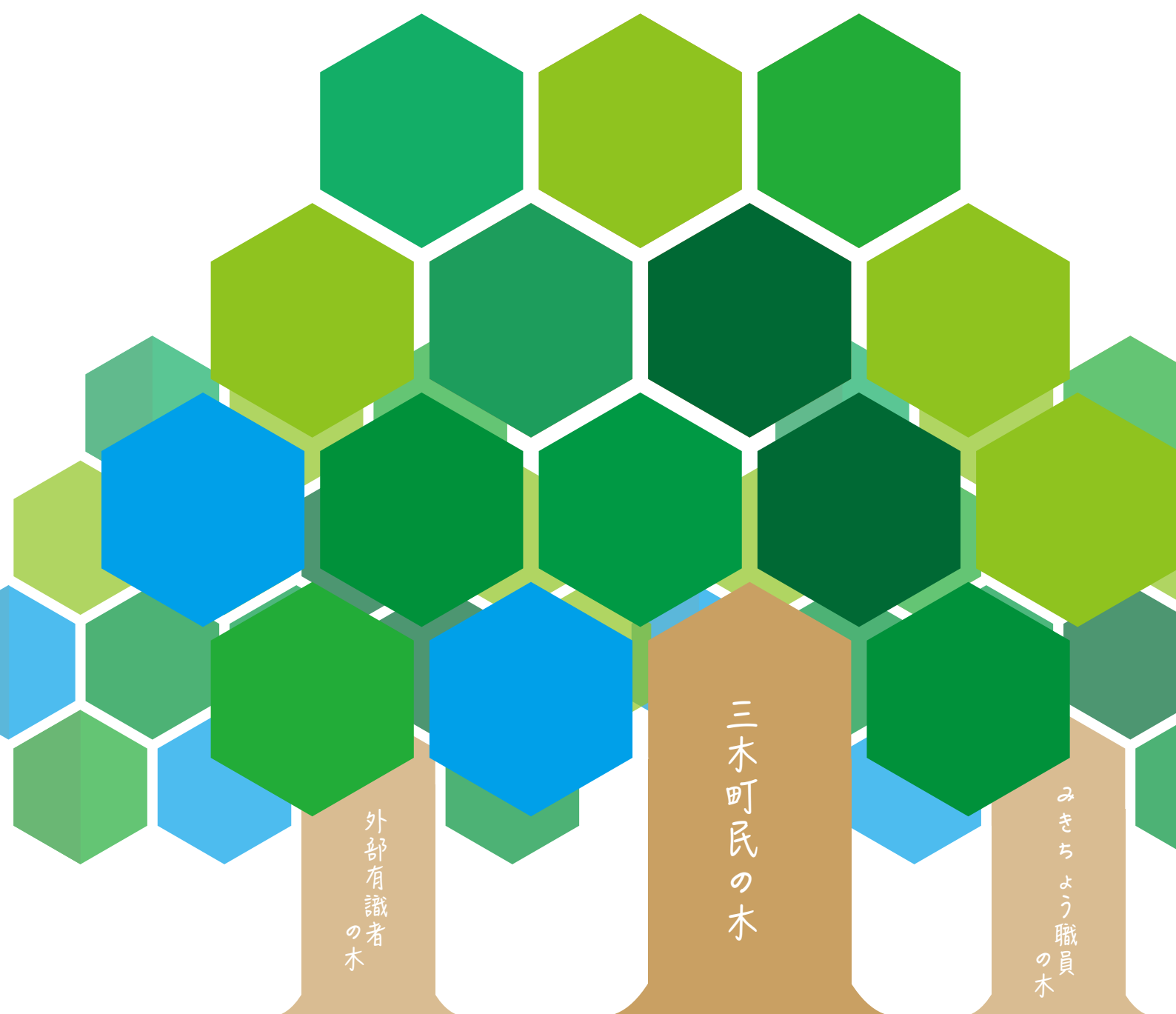
三木町まち・ひと・しごと創生総合戦略

# 三木町 まんで願 大作戦

『わたしのまち』と一人称で呼んでもらえる三木町」をめざして

平成27年10月

香川県三木町



みきちょうの「三木」とは、古史に伝えられている

いどちく地区の「榲の大木」、  
ひらぎちく地区の「柁の大木」、  
あさくらちく地区の「山椒の大木」、

の「三大樹」に由来する。

## 第1

基本的な  
考え方



1 趣旨

p1

2 私たちが  
めざす町の姿

p1

3 理念

p2

4 実行度の  
チェックと  
当事者意識

p3

外部有識者  
の木



# Action for Miki



## 第2 概要

1 「まんで願いきいき  
タウン構想」

- (1) まんで願いきいき  
パーク（仮称）  
【子育て支援を軸  
とした総合施設】  
p5
- (2) 健康寿命の延伸  
p9

2 4つの  
重点プロジェクト



(1)  
三木へきーまい！  
移住促進・受入

～「まちの魅力」を伝える  
情報発信～  
p11

(2)  
行政と  
地域組織の役割

～誰に会っても「あいさつ」  
のあるまちづくり～  
p14

(3)  
しごと・地場産業  
プロモーション

～「三木町で働きたい」  
を実現～  
p17

(4)  
まんで願  
子育て・子育て応援

～子育て+子育て（子ども  
が「自らも育っていく力」  
を全面サポート～  
p20

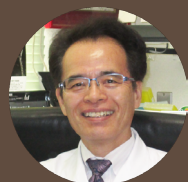
3 情報の  
共有と発信

(1) 地元の魅力再発見  
p23

(2) まちの魅力・情報  
の発信  
p24

三木町民の木

みきちょう職員  
の木







## 第1 基本的な考え方

## 1 趣旨

「幸せな暮らしは自分だけではできない。周りの人や行政と一緒に何をしていけばいいのか考えたい」

無作為抽出によって選ばれた住民による会議「百眼百考会議」の中である女性から出た発言です。

そのような思いを実現するために、行政は何ができるのか、住民の皆さんと一緒に取り組むべきことは何かを考え、議論し、そして形にしました。それが「三木町まんで願大作戦」です。いわば、住民一人ひとりの“幸せ”を実現するための計画です。

私たちは、人口減少の抑制を考えつつも、人口が減っても、少子高齢化が進んでも、住民が幸せを

実感できる仕組みの実現をめざします。そのために、この「まんで願大作戦」では、将来の町の姿と理念をしっかりと住民の皆さんに示し、さらに5年間（平成27年度～31年度）の方向性と具体的な取組みをまとめています。

また、この計画は行政としての活動だけではなく、町民・地域団体・大学・企業など、町全体で課題や今後の方向性を共有し推進することをめざします。

## 2 私たちがめざす町の姿

三木町は、温暖な気候と豊かな自然環境に加えて、隣接する高松市へのアクセスの充実など、生活面や就労面での利便性が高く、

自然環境と利便性が調和した暮らしやすい町です。

近年では、少子化対策として、「ええんちゃん！子育て大作戦」を旗印とし、妊娠から出産、子育てまでの“切れ目ない”支援を行い、子育て家庭の暮らしを応援しています。

それらの取組みが、三木町が県内で

「幸福度ナンバーワン」（四国新聞社による今年度の調査）という評価につながっていると考えています（3ページ参照）。ただし、人口減少や少子高齢化のほか、住民の多様化に伴う地域内でのコミュニケーション（人とのつながり）の希薄化など、町の環境は常に変化しています。これらの課題を解決し、住民一人ひとりが幸せをさらに実感できるようにしたい。

そのような将来の三木町の姿を、

## 『わたしのまち』と一人称で呼んでもらえる三木町

とします。すべての住民がまちづくりを「自分事」として感じられる町。それが一人称で呼んでもらえる町だと考えます。

『まんで願いきいきタウン構想』～三木町に関わるすべての人たちに「三木っていいよね」と感じてもらうために～

私たちがめざすのは、みんなで子どもや子育て世代を守る町です。そのための計画を『まんで願いきいきタウン構想』と呼んでいます。

子育て支援を軸とした総合拠点施設「まんで願いきいきパーク（仮称）」の整備や、希少糖の活用や子どもの頃からの血液検査などによる「健康寿命の延伸」など、町



私が三木町長の筒井敏行です。

私の夢は、三木町が日本一幸せな町になることです。この大きな夢は、町民皆さんと一緒に叶えていくものです。人口3万人弱の小さな幹（三木）でも大黒柱になれることを全国に知らしめていきたいと思えます。ともに「幸福度ナンバーワン」の町をめざしましょう！

三木町長 筒井 敏行



## 第1 基本的な考え方

の魅力をさらに活かした取組みを行います。

そして、子育て世代もその他の世代も、町内に住む人もそうじゃない人も、「最近、三木っていいよね」と感じてもらえるシンボルの取組みになることをめざします。

### 3 理念

「今よりもっと"幸福度の高い"」三木町の実現に向けて、以下の3項目を共通理念としていきます。

#### (1) まちづくりの主役は「住民」

「自分たち住民が作り上げる三木町が大事。提供はしてもらっても、作り上げるのは住民でなければいけない」

総合戦略を検討する会議に参加

していた「氷上おやじの会」の中川和樹さんの発言です。

「公（町民みんな）」のことを考えるのは、行政だけではなく住民一人ひとりです。つまり、まちの主役は「住民」です。行政は住民と常に対話しながら、行政としてできることをしっかり決め、それを住民と共有することによって、住民が町の主役だという意識をさらに持てる環境を作っていきます。

#### (2) 行政らしくない「行政」

「行政が住民を巻き込む」のではなく「行政がいかになら住民に巻き込まれていくか」が大切です。まちづくりの中で行政が担っていることはほんの一部で、住民の毎日の生活の総体が三木町を作っています。従来のように行政が住民の意

見を聞いて決めるのではなく、住民と行政がともに話し合い、暮らしの中に行政が溶け込んでいると住民一人ひとりが感じられるよう、取り組んでいきます。これらことを三木町では「行政らしくない行政」と呼びます。

#### (3) まちづくりは人づくり

まちづくりの原点は"人"。

そこにいきいきと暮らす人々が、町に活力をもたらします。それは、町の宝物です。行政の重要な役割は"人"と"人"をつなぐお手伝いをすること。そこから新たな化学反応が起き、さらなる活力が生まれると考えます。三木町に関わるすべての人の個性が尊重され、誰もが居場所のある環境を住民とともに構築していきます。

### 百眼百考会議の様子



#### ◆百眼百考会議とは・・・

無作為に抽出された町民や地元の大学生で構成された住民協議会。町民の意見を反映したまちづくりを行うため、世代や職業を超えて集まっていただき、町の魅力や課題など興味あるテーマについて話し合い、その内容を町政に生かしていくもの。



**いま、三木町は“幸福度ナンバーワン”の評価を受けています。**

平成 27 年 5 月、四国新聞社が初めて実施した香川県内 8 市 9 町の住民を対象とした幸福度アンケートによると、香川県民が感じている幸福度は平均 6.70 点（10 点満点）であり、市町別では 7.09 点で三木町がトップです。三木町は特に 20 代の幸福度が高く（県全体で 6.20 点、三木町は 7.67 点）、これが全体の高い評価につながったものと考えています。

また、この調査で幸福度を判断する際に重視した要素は「健康」です。

三木町では、すべての中学生を対象とした血液検査と、「希少糖」を活用した食生活改善などを行っており、それらを今後さらに充実することによる健康寿命の延伸を総合戦略の柱の一つと位置付けています。

【平成 27 年 10 月 10 日付四国新聞】

**4 実行度のチェックと  
当事者意識  
～計画をつくることが  
目的とならないために～**

『住民協議会「百眼百考会議」による実行度チェック』

三木町総合戦略は、今後 5 年間の三木町の重点課題について住民全体で共有し、実行していくための計画です。計画の策定はあくまでもスタートであり、これからいかにして実行に移していくかが重要となります。

実行にあたっては、計画の当事者である住民一人ひとりが、この計画に対して「当事者意識」を持つことが再優先であると考え、計

画策定（Plan）、推進（Do）、点検・評価（Check）、改善（Action）のすべての過程において、住民が中心となって取り組める環境を作ります。

また、行政の取組みは成果が出にくいと言われていますが、何がゴールかを常に意識して、「町民と共有できる目標」を重視した取組みを実現します。

各分野において個人（住民）・地域としての役割、行政としての役割が整理された上で共に助け合い、それぞれの主体の柔軟な発想と強い結びつきによって課題解決に取り組むことで、計画推進のマネジメントを強化し、着実に「実行」される計画とします。

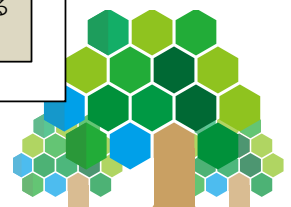
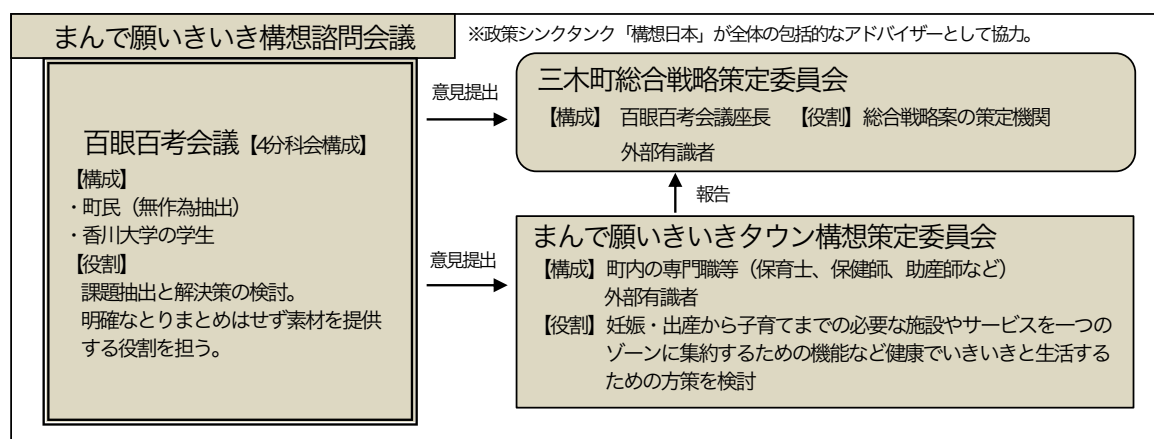
(1) 計画策定 (Plan)

総合戦略の策定にあたっては、無作為抽出で選ばれた住民と三木町に拠点のある香川大学生による「百眼百考会議（住民協議会）」を中心としました。幅広い立場や層の住民によって総合戦略の基礎を作り、それらを全国的に活躍する外部有識者で構成された「まんで願いききタウン構想策定委員会」、「三木町総合戦略策定委員会」での議論を通じてとりまとめました。（詳細は下図参照）

(2) 推進 (Do)

推進するには、まずは多くの住民が戦略を目にすることが重要です。多様な媒体を通じて、幅広

“三木町総合戦略” の策定体制





## 第1 基本的な考え方

く効果的に情報発信することで、本戦略を全住民の少なくとも半数が目を通すことを目標にします。また、各分野において関連する住民、地域、団体、企業、行政が一緒になって推進できる体制を構築し、同時に、期間内における優先順位や方向性を明確にし、行政を含む各主体で共有します。まちの総力をあげて重点分野に取り組むことで高い実効性を確保し、推進力を高めます。

### (3) 点検・進捗評価 (Check)

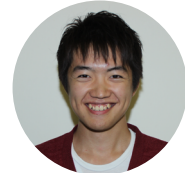
外部有識者等による点検・評価のプロセスに住民も参加し、点検及び進捗評価を行います。数値目標 及び取組みの進捗状況を検証する上で、当事者である

住民目線からの生の点検・評価を行うことで、さらに実効性が高まると考えます。

そのため、「百眼百考会議」での点検・評価内容について議論のプロセスを公開することで、住民間での議論を喚起し、総合戦略にも反映できるようにするとともに、現場における取組みの改善にもつなげます。

### (4) 改善 (Action)

毎年度実施する点検・評価の結果を基に効果検証を行い、その検証結果を踏まえた施策の見直しや、必要に応じて総合戦略の改訂を行います。行政の計画だから絶対ではなく、状況の変更等に応じて柔軟に変えていきます。



香川大学農学部2回生  
森本 貴行さんの「声」

今回の百眼百考会議に参加して、普段自分があまり関わる機会がなかった人たちと三木町について話し合うことが出来たため、自分にとっては新しい発見の連続でした。驚きや納得が多々あり、とても楽しい時間となりました。住民の方々や役場の方々と議論して出た意見が反映されたこの総合戦略が、現在は普段関わりの薄い自分たち学生も含めて、三木町全体にいい影響をもたらしてくれればとても嬉しいです。

## 住民の思いを未来へとつなげ!!



まちづくりに関わる住民の増加が当事者意識をもつ住民の増加につながり、その住民の三木町への「思い」が町の未来へとつながっていきます。

私たちは多様化する住民ニーズに最も効果的に対応できるよう「切れ目ない」仕組みづくりを行政として担っていきます。



## 第2 概要

## 1 『まんで願いきいきタウン構想』

～三木町に関わるすべての人たちに「三木っていいよね」と感じてもらうために～

三木町は、まちづくりにおける基本理念のひとつ、「まちづくりは人づくり」を実現するため、かねてより「ええんちゃうん！子育て大作戦」を旗印に、様々な子育て支援施策に取り組んできました。「日本一子どもを産み育てやすい町」をめざし、妊娠から出産、子育てまでの“切れ目ない”支援を行い、子育て家庭を応援してきました。2013年度の人口が増加となったことは一つの効果と考えています。

総合戦略の柱として掲げる『まんで願いきいきタウン構想』は次の2項目からなっています。

## ①「まんで願いきいきパーク（仮称）」の整備

私たちは、子育て支援のトップランナーとして様々なサービスを行ってきた自負があります。切れ目のない子育て支援に必要な施設やサービスをひとつのゾーンに集約した総合拠点施設を整備することにより、これまで以上に住民が安心して子どもを産み育てやすい環境づくりを行います。

## ②「健康寿命の延伸」

医師会の協力によって28年もの間継続してきた「小・中学生

の血液検査」を今後も着実に実施するとともに、町内に香川大学医学部、農学部キャンパスがある特徴を活かして、三木町発の「希少糖」を活用した生活習慣病予防対策を実施することで、住民の健康寿命を延伸し、あわせて将来の医療費の削減につなげます。

これら2つの取組みによって、三木町に関わるすべての人の「三木っていいよね」を実現します。

## (1) 第1の構想

『まんで願いきいきパーク（仮称）』  
【子育て支援を軸とした総合施設】

## 1 基本的な方向

「三木町が子育ての町のイメージはあまりない・・・」

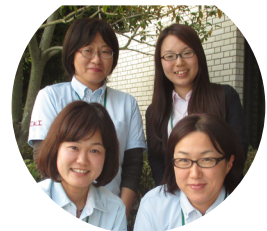
「子育てしている時にホット一息つける場があればいいな」

前述のとおり、これまで子育て支援に力を入れてきましたが、子育て世帯へのアンケート調査（本年9月実施）で、個々の子育て関連施策について認知度が低いものが多いなど、まだすべての取組みが住民に浸透しているわけではあ

りません（詳細28ページ参照）。

「三木って子育てしやすい町だよね」と、もっと多くの人に感じてもらえるよう、「まんで願いきいきパーク（仮称）」をこれまで以上に住民が安心して子どもを産み育てられる環境づくりをめざし

「他の人もちゃんと子育てしてるんだからやらなきゃ」と抱え込む人、リスクの高い妊産婦（精神疾患のある人、産後うつ、若年・高齢出産、外国人、シングルマザー、望まない妊娠等）。そのような人ほど戸惑いや不安を抱えているのにSOSを出せなかったり、出す方法が分からなかったりします。

まんでがん子ども課  
保健師・助産師

保健師・助産師は、そのSOSを早い段階で受け止め、関係機関と力を合わせながら、気持ちを軽くするための方法を一緒に考えていきたい。私たちは、最初から最後まで味方でありたい。

人は「あの人がいるから『会って相談しよう』『電話をしよう』」と思えます。その“あの人”に、子育て全部の専門職である私たちがなろう、なりたい。そう思っています。



## 第2 概要（まんで願いきいきタウン構想）

た子育て支援の総合拠点施設、いわばこれまでの子育て支援の集大成と位置づけます。このパークを子育て世代だけでなくすべての住民にとっての休息の場、人とつながる空間とすることによって、「子育てから始まる全世代の交流拠点」となります。

将来的には、ひとり親家庭も外国人の家庭も、「誰もが子育てしやすい町」をめざします。

### 2 基本目標

#### ① “必然性”による場の設定

「まんで願いきいきパーク（仮称）」の機能は、住民の「必然性」を再優先に考えます。その中心は健診や子どもの相談など子育て世代のニーズに沿ったサービスのワンストップです。また、香川大学医学部との連携協力の下での妊婦健康診査の実施などさらなる保健機能の充実をめざします。さらにカラダに優しい食事指導など子ども、妊婦、高齢者の方々の食の拠点化や希少糖の活用などの健康な心と体づくりに関する香川大学サテライトオフィスの開催、あわせて屋内遊び場の併設など、保健事業にとどまらず子どもから大人までが必然的に足を運ぶための「付加価値」を持たせることによって、このパークは「子育てから始まる全世代の交流拠点」となります。

#### ② “誰もが利用できる”自宅と職場・学校以外のサードプレイスの創出

三木町では、第1の場である「自宅」と第2の場である「職場・学校」以外で、自分にとって居場所となる場を「サードプレイス（第3の場）」と呼びます。

子どもの健診や相談に行ったとき、ほんの少しだけ1人の時間・休息が欲しいという親の声。

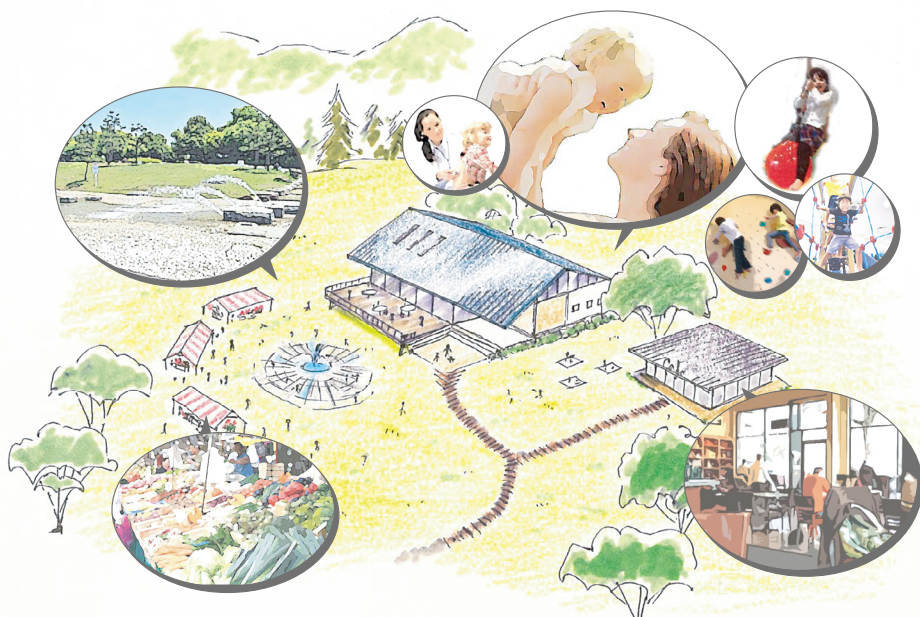
そういった住民ニーズに対応できるよう、民間企業の持つノウハウや魅力を活用して、「多くの住民が自由に集い活用できる場」「ホッとできる空間」をパークの中につくります。積極的に民間企業に進出を働きかけ、ともに魅力ある施設整備を進めることで、子育ての場のみならず休息や人とつながれる場など、すべての住民にとっての「サードプレイス」を創出します。

#### ③ 交流（コミュニケーション）の広がり

～「大学生、愛育会、おやじの会……」  
”切れ目ない”交流～

ベッドタウンとして発展してきた三木町は、新興住宅に転入してきた新住民と旧住民との交流不足など、町内での人間関係（コミュニケーション）の希薄化が以前からの課題となっていました。子育て支援総合拠点施設の整備とサードプレイスの創出による必然的な場の設定によって、大学生や愛育会、おやじの会などこれまで活発に活動していた団体やサークルと、イベント等にあまり参加していなかった人たちとの間に交流が生まれます。

住民の「熱」を高める場所を提供するとともに、住民同士がコミュニケーションを育み、交流の広がりが持てる活動を支援します。





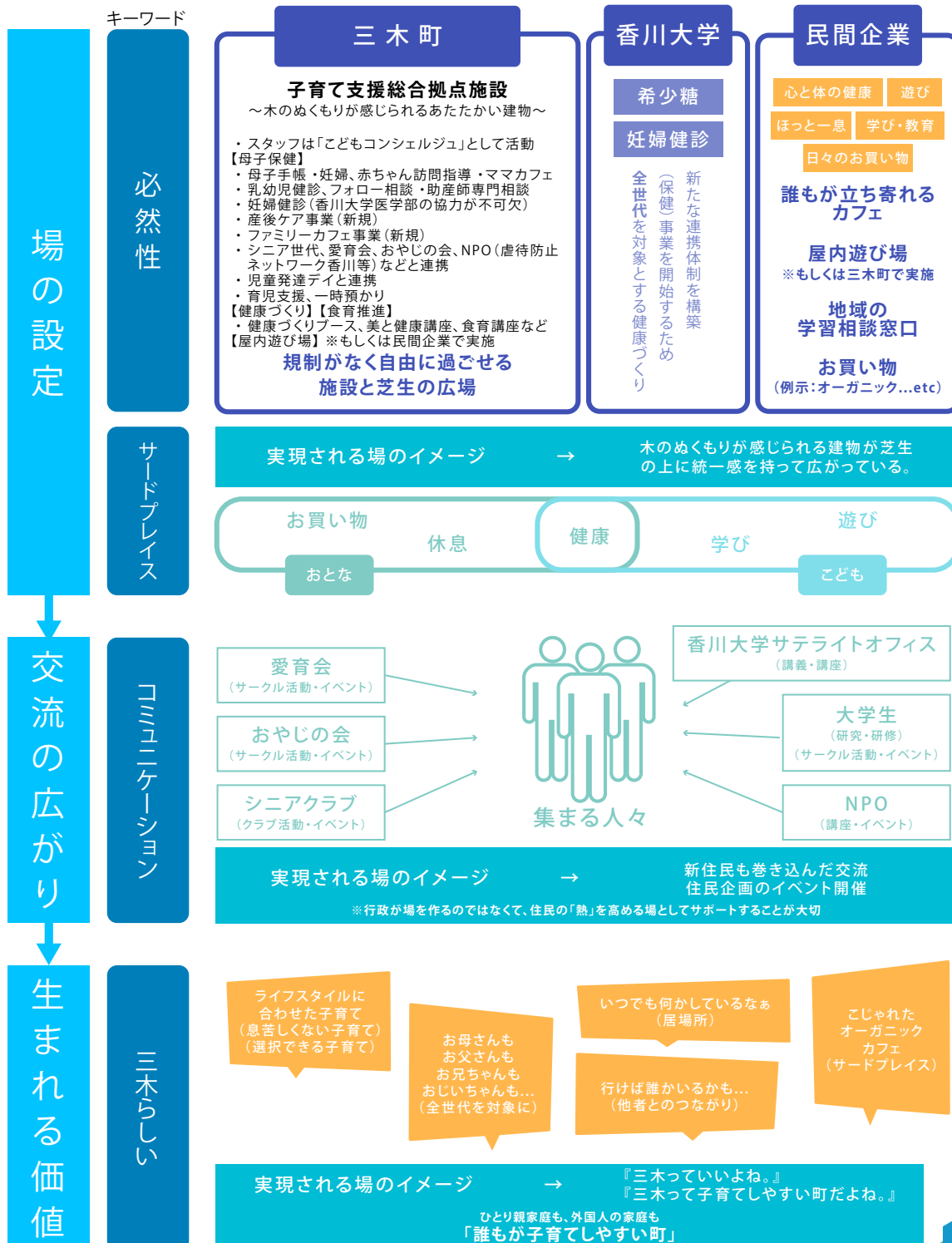
●数値目標（平成31年度）

指標	数値目標
“三木町が好き”と感じる住民の割合	90%（24,000人以上） 【H26.2 現在 地域への愛着度 80.3%】

3 具体的な施策と重要業績評価指標

① まんで願いきいきパーク（仮称）の整備

【まんで願いきいきパーク（仮称）のイメージ】



## 第2 概要（まんで願いきいきタウン構想）

重要業績評価指標（KPI）	数値目標
まんで願いきいきパーク（仮称）来場者数	250,000人/年

### ② 妊娠・出産から子育てまでの "切れ目ない" 支援

これまで子育て支援に重点を置いてきた三木町の保健事業は、母子手帳の交付に始まり、両親学級、妊婦・赤ちゃん訪問、助産師による専門相談、また乳幼児健診などしっかりと基本的な保健事業を実施するとともに、24時間体制の乳幼児一時預かりサービスや子育てホームヘルパーの派遣による家事援助サービス、さらには病児お迎え（受診代行）サービスと一体となった病児病後児保育サービスなど、先駆的な子育て支援施策を行ってきました。これらの保健事

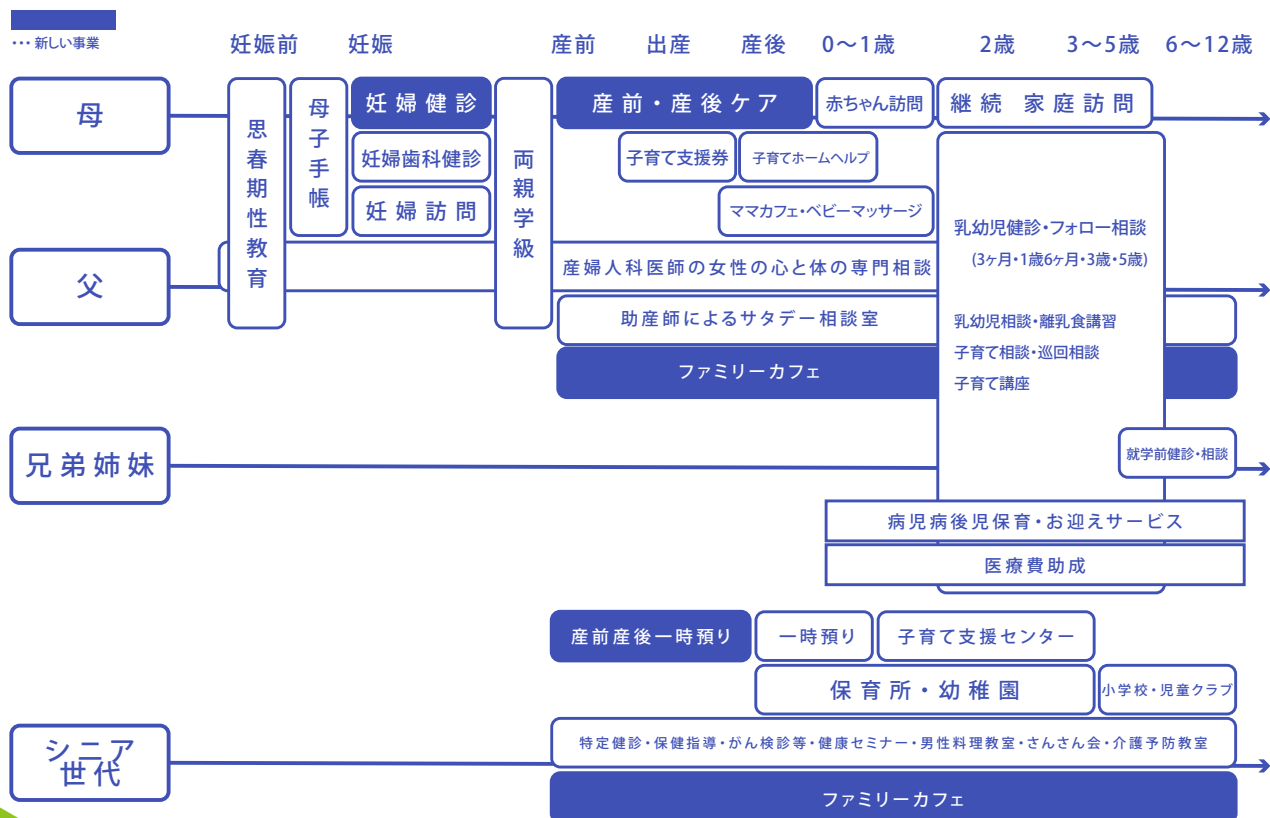
業の実施にあたっては、「産前産後ケアのプロ」である助産師が加わっており、妊産婦の体調の変化に伴う不安やニーズを理解しながら、様々な危険な芽（虐待、育児不安、産後うつ等）を早期に見つけ、保健師と一体となって細やかに"切れ目ない"支援を行ってきました。

しかし、全国的に母親の出産後の入院期間の短縮化傾向や、核家族化の進行により祖父母たちの支援がなかなか受けられないといった現状、そして三木町においては入院直後から産後期にかけての行政サービスが少ないという課題が

ありました。

よって、まんで願いきいきパーク（仮称）では、これら現状や課題を受けて新たな産後ケア事業を実施します。段階的に宿泊型産後ケア事業へと拡充し、将来的には妊婦を対象とした産前ケア事業の開始も視野に入れ、産前産後期における妊産婦に休息の機会を提供します。また、これまで以上に切れ目のない子育て環境づくりを目的として、まんで願いきいきパーク（仮称）における妊婦健康診査の実施をめざします。身近な健診環境の充実によって、安心して子育てできる環境づくりをめざします。

【新たな保健事業のイメージ】





さらには、父親が家事や育児にいきいきと携わることを目的として男性の家事育児支援事業やファミリーカフェを開催するなど、家族全員で関わる子育て環境づくりを推進します。

重要業績評価指標 (KPI)

産後ケア事業開始

(2) 第2の構想

「健康寿命の延伸」

1 基本的な方向

香川県の人口10万人に対する糖尿病受療率は全国ワースト2位(平成23年)と、かねてより深刻な状況となっています。

三木町では医師会との連携協力のもと、「小児生活習慣病予防検診」として全国に先駆けて1987年から継続的に中学生の血液検査を実施してきました。さらに、2009年からは小学生へと検査の対象を拡大しており、平成26年度小学4年生の血液検査の結果では、脂質異常が7.1%、肝機能異常が3.7%見られましたが、その後の食育・生活習慣改善指導で、

3か月以内に6割が改善しています。現在では、児童生徒のみならず成人式においても血液検査を実施しています。

また、三木町では香川大学医学部との連携協力のもと「健やかあすなるプロジェクト～児童の糖尿・肥満撲滅プラン～」として、三木町発の「希少糖」を食育や生活習慣改善指導、また啓発事業に活用するとともに、小学校において生活習慣病予防、改善のための運動処方の研究を活かした健康づくり教室を開催するなど積極的に生活習慣病予防対策に取り組んでいます。

これら町の魅力をさらに活かした取り組みを行うことで、子育て世帯を中心とした誰もが住みやすい三木町をめざし、日本のモデルケースとなる取り組みとしていきます。

2 基本目標

今後は、これらの取り組みをしっかりと継続するとともに、全ての住民へと対象を拡大した生活習慣病予防対策の検討を目的として、新たに「小児生活習慣病予防

対策委員会(仮称)」を設置します。本委員会において、28年間にわたって医師会の協力のもと継続してきた血液検査体制をより強固なものとして児童生徒の生活習慣病予防対策を着実に実施するとともに、さらなる香川大学との連携協力によって、希少糖や健康づくりをテーマとしたサテライトオフィス等を積極的に活用することで、住民誰もが血液検査によって自分の健康状態を確認できる機会を提供します。健康づくりに対する意識を高め、自分で健康づくりに取り組める環境づくりを目的として新たな仕組みを検討していきます。

さらに、「小児生活習慣病予防対策委員会(仮称)」において計画・実施する様々な事業に係る調査、研究等について、倫理的観点と科学的観点を含めて審査する「三木町倫理委員会(仮称)」を設置し、これらの組織が両輪となって三木町の生活習慣病予防対策を推進します。これにより、住民の健康寿命の延伸をめざし、あわせて医療費の削減につなげていきます。

●数値目標(平成31年度)

指標	数値目標
男性の健康寿命 (日常生活動作が自立している期間の平均)	79年以上【H22年:78.09年】
女性の健康寿命 (日常生活動作が自立している期間の平均)	83年以上【H22年:82.47年】

<厚生労働科学研究「健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究班」が公表した「健康寿命の算定方法の指針」及び「健康寿命の算定プログラム」をベースに香川県で算出>  
※「日常生活動作が自立している期間」とは、介護保険の要介護2～5の認定を受けている期間を除く期間です。

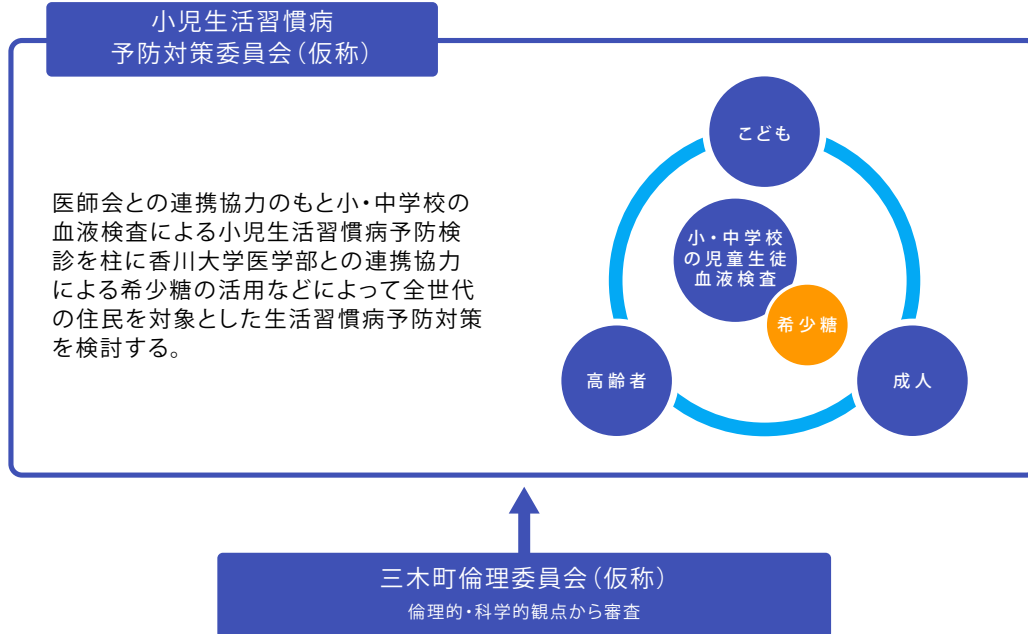


## 第2 概要（まんで願いきいきタウン構想）

### 3 具体的な施策と重要業績評価指標

①全住民を対象とした生活習慣病予防対策の実施を検討する組織づくり

#### 【小児生活習慣病予防対策委員会（仮称）のイメージ】



重要業績評価指標（KPI）
小児生活習慣病予防対策委員会（仮称）設置
三木町倫理委員会（仮称）設置



（上） 小児生活習慣病予防血液検査

（右） 小学校給食に希少糖を活用



## 2 4つの重点プロジェクト

### (1)「三木へきーまい！移住促進・受入」プロジェクト ～「まちの魅力」を伝える情報発信～

#### 0 百眼百考会議での議論

「大都市圏に住む子育て家庭に三木町に来てもらおうとしても、情報発信ができていない。十分に伝わっていない。」

⇒ インターネットの情報発信するなど、広報活動のやり方が重要。

「三木町には外で勉強やパソコンを使って仕事をする場所がない。」  
「町内図書館内では自習が禁止されている。サンサン館1Fロビーは飲食ができない。」

#### ●数値目標 (平成31年度)

指標	数値目標
人口の社会増減数	100人/年【H26年：-78人】

⇒住民ニーズに対応できるよう、「規制緩和」や「新たな機能の付与」による公共施設内へのサードプレイスの創出が必要。  
「三木町は『いなかっぼさ』を売るべき。」

⇒「移住者には、農業体験として田植えや小さな家庭菜園、農園などをしたいと思っている人もいますので、小規模の田畑を斡旋できないか。」

#### 1 基本的な方向

ベッドタウンとしての特徴や「子育て支援」をはじめとする町の魅力を活かして、誰もが「住みたい、住んでみたい」と魅力を感じて移

住・定住できる三木町をつくります。また、移住者が地域にすぐ溶け込めるような受入環境を整えることで、“切れ目ない”移住定住支援を行います。

#### 2 基本目標

「子育て支援」をはじめとする町魅力を対外的に発信できていないという課題を受け、町魅力を積極的に町内外へ情報発信することで、本町への人口流入促進と流出抑制を図ります。

また、移住・定住推進の取組みを強化するとともに、住環境をはじめとする受入環境（体制）を充実させます。



## 第2 概要（4つの重点プロジェクト）

### 3 具体的な施策と重要業績評価指標

分類	住民・地域としての役割 (お願いする事項)	行政としての役割	平成31年度達成目標
① まちの魅力の 共有と情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりが町をよく知り、町の長所（気に入っていること）を認識する【自分のまちを好きになる】。</li> <li>個人的に情報発信をする。（口コミ情報、知人への紹介、インターネットやSNS等利用）</li> <li>町外の知人や親戚等に町の魅力を呼びかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●町内外に住んでいる人に「町の魅力」を感じてもらい、移住したくなる効果的な情報発信を行う。 (具体的取組) <ul style="list-style-type: none"> <li>・三木町魅力発信力向上 ⇒魅力発信力向上戦略の策定 ⇒特設PRサイトの構築</li> </ul> </li> <li>●三木町に住んでいなくても三木町とのつながりを求める人たちを増やす取組みを行う。 (具体的取組) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと住民票(※)活用</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移住PR特設サイトの構築</li> <li>・移住PRサイトアクセス件数：12,000件/年</li> <li>・移住相談件数：60件/年【H26年：約30件】</li> <li>・ふるさと住民票登録者：1,000人</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三木町の位置・環境を周知することで、住みやすさ、暮らしやすさをアピールする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●三木町での生活を具体的にイメージしてもらうための取組みを行う。 (具体的取組) <ul style="list-style-type: none"> <li>・三木町周辺マップ20min.(My Carバージョン)作成 (三木町からアクセス可能圏内20分を示したマップ)</li> </ul> </li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大都市圏等にいる知人や親戚等にまちの魅力を呼びかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大都市圏等からの移住促進を図るため、移住フェアへの参加や、直にまちの魅力を感じてもらう機会として体験ツアーを行う中で、町の魅力を発信する。 (具体的取組) <ul style="list-style-type: none"> <li>・移住フェアへの参加</li> <li>・町の魅力体験ツアーの実施</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移住フェアでの相談者数：50件/年(東京・大阪各1回)</li> <li>・町の魅力体験ツアー参加者数：15人/年</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町の魅力を知る努力をする。</li> <li>・町の魅力を語り合う機会を持つ。</li> <li>・町の魅力をSNS等を活用して、知人や第三者に発信する。</li> <li>・町外からの来客に対して、積極的に町内各所を案内する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●若年世代に向けた魅力向上 町内に潜在している魅力的な店舗等を町内大学在学中の学生等とともに対外的にPRする。 (具体的取組) <ul style="list-style-type: none"> <li>・「町内大学生が選ぶ名店ガイド(仮)」発行</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昼間人口：25,000人以上【H22年：25,019人】</li> </ul>



#### 「ふるさと住民票」とは...？

三木町で生まれ強い愛着を持ちながらも現在は離れた都市で暮らす人や、三木町に住みながらも住民票は移していない大学生、仕事などで居住地を時々変える必要がある人など、三木町とのかかわり方は様々です。このような心のつながりを可視化する一つの手法が「ふるさと住民票」。いわば、三木町の「ファン」との繋がりを明示しようという取組みです。例えば、帰省時に町民料金で公共施設の利用ができるなどを検討しています。



## 第2 概要（4つの重点プロジェクト）

分類	住民・地域としての役割 (お願いする事項)	行政としての役割	平成31年度達成目標
② 移住・定住の 推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家が生じていることを地域の問題として考える。</li> <li>・空き家バンク制度に対する理解を深め、利活用しなくなった家屋等を積極的に提供する。</li> <li>・地域を挙げて移住者を受け入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●空き家所有者に対して、仕組みを見直した上で空き家バンクへの登録促進を行うとともに、空き家の実態を把握し、移住者のニーズに応じて活用できる、子育て世帯用、家庭菜園付など、用途別の空き家マップを作成する。 (具体的取組) <ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家バンク運営</li> <li>・空き家実態調査</li> <li>・用途別空き家マップの作成</li> <li>・三木へきーまい助成金等交付</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家バンク登録件数（期間内累計）：20件 【H 27.8 現在 2 件】</li> <li>・空き家バンク物件入居者（移住者）：10人/年 【H 27.8 現在 5 人】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜作り等を教えることを通じて移住者との交流を図る。</li> <li>・地域で移住者を支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●就農もしくは貸し農園や自分の畑での野菜作りなどを実施しようとする人に香川県農業士（野菜作り名人）を紹介し、プロの知識を提供・伝授することで、就農意欲と作業効率の向上を図る。 (具体的取組) <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業指導員の紹介</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・香川県農業士による支援件数：10件/年</li> </ul>
③ 受入環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な場・機会に出会う移住者と積極的に交流を図る。</li> <li>・サードプレイスとなる場の創出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校や職場ではなく、気を遣わず雰囲気を変えられる、気楽に立ち寄れる場所（サードプレイス）づくりを行う。 (具体的取組) <ul style="list-style-type: none"> <li>・サードプレイス整備</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サードプレイスとして活用されている場：5箇所</li> </ul>
④ 就農希望者への就 農定着支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業をしてみたいという移住者に、農地を提供する。</li> <li>・耕作放棄地の解消に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●農業体験サービスの実施 就農希望の移住者を対象に農業体験の機会を提供し、イメージとのミスマッチ解消と新規就農への意欲向上に努める。 (具体的取組) <ul style="list-style-type: none"> <li>・移住者対象農業体験</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業体験者：20人/年</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者の就農を地域ぐるみでサポートする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新規就農者支援 次世代を担う青年就農者等を支援し、新規就農者の増加につなげる。 (具体的取組) <ul style="list-style-type: none"> <li>・青年就農給付金（準備型・経営開始型）</li> <li>・新規就農者サポート</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規就農者：10人/年</li> </ul>





## 第2 概要（4つの重点プロジェクト）

### (2) 「行政と地域組織の役割」

#### プロジェクト

～誰に会っても「あいさつ」のあるまちづくり～

#### 0 百眼百考会議での議論

『日常的なコミュニケーションが図られていない。』

⇒地域内での人間関係（コミュニケーション）が希薄化している。また、新興住宅に転入してきた“新住民”と“旧住民”との関わりも希薄。

⇒地域内にある自治会などの組織の役割が、不明確で住民に浸透していない。

⇒高齢者同士の交流はもちろん、

●数値目標（平成31年度）

子ども（幼稚園児や小学生など）との世代を超えた交流が必要。

#### 1 基本的な方向

- ① 住民や地域づくりに関わる多様な団体の活動意欲を高めるとともに、地域づくりを主体的に考える対話の場づくりを進めます。
- ② 高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすことができ、地域活動をはじめ、いきいきと社会参加することができる環境を構築します。
- ③ すべての住民が防災意識を持ち、自らの生命を守るための主体的な行動ができるよう、

積極的な広報啓発活動を実施します。また、各地域での災害時連携体制等を強化し、「自助・共助」の取組みを推進します。

#### 2 基本目標

- ① 地域のコミュニケーション力を高め、誰もが暮らしやすい地域をつくります。
- ② 高齢者が老後も生きがいをもって、いきいき暮らせるまちをつくります。
- ③ 「自助・共助」を中心とした災害に強いまちをつくります。

指標	数値目標
自分が住んでいる地域に「愛着」を感じている住民の割合	90%以上（24,000人以上） 【H26.2 現在 地域への愛着度 80.3%】



男性料理元気塾

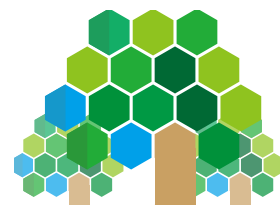


水中ウォーキング



3 具体的な施策と重要業績評価指標

分類	住民・地域としての役割 (お願いする事項)	行政としての役割	平成31年度達成目標
① 誰もが暮らしやすい地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治会や町の活動(行事)に積極的に参加する。</li> <li>日頃から挨拶、声かけをする。</li> <li>地域の中で、自分の居場所や役割を見つける。</li> <li>子育てや教育を通して、高齢者と子育て世代、転入者と旧住民との交流をする。</li> <li>清掃活動、防災活動、運動会等の機会に親睦を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域コミュニティの再生と活性化につなげるため、住民主体の活動を支援する。また、まちづくり活動に関する情報を提供する。 (具体的取組) ・まちづくり協議会構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まちづくり協議会の設置数：13地区</li> <li>自分がどこの自治会なのかが明示できる比率：80%</li> <li>過去1年間に地域活動、行事等に年1回以上参加した20歳以上の住民の割合：90%以上 (H26.2 現在 90%)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●住民が町の魅力や課題などの議論をし、それに基づいたまちづくりを行うことで、三木町をさらに好きになり、ひいては町外の人々が三木町に行きたいと思わせることにつながる。 (具体的取組) ・百眼百考会議運営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まちづくりに興味を持った人の割合：100%</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●町の魅力を知る努力をする。</li> <li>●町の魅力を語り合う機会を持つ。</li> <li>●SNS等の活用によって、町の魅力を知人や第三者に発信する。</li> <li>●町外からの来客に対して、積極的に町内各所を案内する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●まちのトピックスを広報誌等で積極的に情報発信するとともに、住民が住民記者となりまちの魅力をSNS等を通じて発信する。 (具体的取組) ・広報誌発行 ・三木町魅力発信力向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●広報誌記事掲載件数：1件以上/月</li> <li>●住民記者数：10人</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●住民同士積極的に交流を図る。</li> <li>●サードプレイスとなる場の創出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校や職場ではなく、気を遣わず雰囲気を変えられる、気楽に立ち寄れる場所(サードプレイス)づくりを行う。 (具体的取組) ・サードプレイス整備(再掲)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●サードプレイスとして活用されている場：5箇所</li> </ul>	



## 第2 概要（4つの重点プロジェクト）

分類	住民・地域としての役割 (お願いする事項)	行政としての役割	平成31年度達成目標
②高齢者の生きがいづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域として高齢者が、気楽に集まれる場所を設ける。</li> <li>・友人や近所で、暇を持て余して家にいる人に外出するよう声をかける。</li> <li>・地域の高齢者の要望があれば、買い物の際に一緒に購入してくる。</li> <li>・シルバー人材センターに登録し活動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域において高齢者の経験、技能及び資格を生かせる機会や環境をつくる。また、地域での健康づくり活動、ボランティア活動、交流活動などへの参加を促進する。</li> <li>(具体的取組) <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防サポーター養成講座</li> <li>・傾聴ボランティア養成講座</li> <li>・一人暮らし高齢者等見守りボランティア</li> <li>・小学生高齢者宅訪問</li> </ul> </li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>社協・シルバーとの連携</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おいでまいサロン (社会福祉協議会)</li> <li>・シルバー人材センター事業 (シルバー人材センター)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防サポーター登録者数：220人(H27.8現在172人)</li> <li>・傾聴ボランティア登録者数：50人(H27.8現在25人)</li> <li>・見守りボランティア登録者数：60人(H27.8現在39人)</li> <li>・小学生高齢者宅訪問者数：30人/年</li> <li>・高齢者の外出頻度週2回以上の割合：55%(H25.4現在：50%)</li> </ul>
③安心・安全なまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各家庭において災害時の対策について話し合う。</li> <li>・地域として、町役場との情報交換等連絡体制の構築を図る。</li> <li>・地域内で、有事の際に「誰に連絡すればいいのか」、「誰がまとめ役になるか」等の役割を決めておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 防災の基本となる「自助・共助」の取組みを推進し、自主防災組織の結成促進を図る中で、防災意識の高揚と災害対応力の強化を図る。</li> <li>(具体的取組) <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災意識(力)向上事業(自主防災訓練、防災セミナー等)</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災訓練参加人数：200人/年</li> <li>・自主防災組織のカバー率：100%(H27.4現在96.6%)</li> <li>・住宅耐震診断件数：30件(H27.8現在22件)</li> </ul>





(3) 「しごと・地場産業プロモーション」プロジェクト

～「三木町で働きたい」を実現～

0 百眼百考会議での議論

『三木町民が町内にどんな仕事場があるかを知らない。』

⇒「しごと」についての情報提供と「しごと」に触れ合う機会の提供を強化すべき。

『新産業の発掘よりも既存資源の有効活用に重きを置く。』

⇒基幹産業である農業の振興、香川大学農学部・医学部との連携、希少糖を軸とした魅力の発信をすべき。

1 基本的な方向

香川大学農学部、医学部をはじめとした大学との連携や三木町の産業の最も大きな特徴の一つである“希少糖”を軸に、しごと環境、産業発展、魅力向上等に関する三木町の潜在的な資源を浮かび上げ、それを最大限活用することで、幅広い雇用を創出します。

2 基本目標

- ・若年世代に、三木町の仕事や産業、魅力についてよく知ってもらうことで、永続的に三木町に住み、暮らすことを考えてもらいます。
- ・三木町内の潜在的雇用をあぶり出し、求職中の人々へ発信することで、三木町で働きたい人の希望を実現します。

●数値目標（平成31年度）

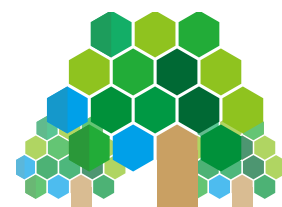
指標	数値目標
20歳～24歳の人口社会増減数	-40人（H26年：-46人）



まちで働く若者



三木町の特産“いちご”



## 第2 概要（4つの重点プロジェクト）

### 3 具体的な施策と重要業績評価指標

分類	住民・地域としての役割 (お願いする事項)	行政としての役割	平成31年度達成目標
① まちのしごと情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の調査への協力をを行う。</li> <li>・町の産業やしごと（職場）を知り、その魅力を口コミで広める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 三木のしごと情報の収集・発信 三木町内の事業所等が抱える現状と課題（雇用のミスマッチ等）を調査し、調査を生かした上で町内事業者の技術や雇用情報を効果的に発信することで、雇用や新たなビジネスチャンスを創出する。 (具体的取組) ・みき仕事情報調査・発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・20歳～24歳までの人口社会増減数：-40人 (H26：-46人)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町が発信する情報を学生が積極的に活用する。</li> <li>・企業側が、研修や見学等の積極的な受け入れを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学生への情報発信 学生に対して、町内事業所の工場見学や多種多様な職場体験、より実践に近い形のインターン等を効果的に行う。 (具体的取組) ・みきの職場まるわかり事業</li> </ul>	
② 地場産業の振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町の特産物を積極的に応援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 特有農産物の「戦略」の明確化 三木町の特産物であるいちご、黒大豆等の農業戦略を明確にし、農家に対するサポートを含めた支援体制づくりを行う。 (具体的取組) ・特産物育成支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いちご農家数：80件 (H27.4 現在 56件)</li> <li>・提供される耕作放棄地件数：5件</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耕作放棄地やその情報を提供する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● “体験型”農業の推進 グリーンツーリズムを推進するとともに、付加価値を持った農作物等の育成など農業を手軽に体験できる「貸し農園」や「ICTを活用した農場」について学官連携のもと耕作放棄地等を活用した取組を行う。 (具体的取組) ・グリーンツーリズム推進 ・耕作放棄地利活用</li> </ul>	



分類	住民・地域としての役割 (お願いする事項)	行政としての役割	平成31年度達成目標
② 地場産業の振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>三木町で生産された野菜や果物のうち、流通が難しいB級品を提供する。</li> <li>三木町産の農産物を積極的に購入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地産作物等の販売促進 地産の農産物や、香川大学農学部で研究された新品種の農畜産物を販売・PRできる場を創出する。 (具体的取組) ・三木らしいカフェ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三木らしいカフェ年間集客数：3,000人</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「希少糖の里 みき」の認識を高めるとともに、広報する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「希少糖の里 みき」地域ブランド化</li> <li>・希少糖の町内での活用事例について、町内外に対して周知を図る。</li> <li>・産学官協働のもと、希少糖関連事業所へのインターンを促進するなど、若年世代が希少糖に接する機会を創出することで、町全体で希少糖のブランド化を図る。</li> <li>・希少糖に関する知的財産権の付与について検討する。 (具体的取組) ・地域ブランド戦略</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「希少糖の里 みき」の認知度：90%</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トップスポーツチーム等を応援する。</li> <li>・団体、地域として、合宿の誘致に協力する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● スポーツ施設を活用したにぎわいづくり 三木町総合運動公園を中心に三木町内各種スポーツ施設と連携し、合宿地として誘致する。 (具体的取組) ・総合運動公園施設整備 ・トップスポーツチーム等誘致</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トップスポーツチーム等の合宿の誘致件数：H31年度までに1件以上</li> </ul>

### 希少糖の里 みき

#### 香川県三木町で生まれ、地域の中に生きる「希少糖」

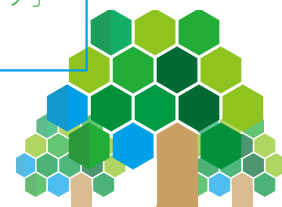
三木町には、廃校を活用した三木町希少糖研究研修センターをはじめ、希少糖の研究拠点として香川大学農学部や医学部があるほか、地域振興や教育の分野でも希少糖が取り入れられています。

#### 希少糖の木「ズイナ」

自然界に存在する希少糖は「ズイナ」という植物にのみ含まれています。そのズイナの培養は、山南地区の60～80代の方々に構成される「小菘ズイナーズ」によって担われ、研究材料としてだけでなく、希少糖の普及啓発のための教材用キットとしても活用されています。



希少糖の木「ズイナ」



## 第2 概要（4つの重点プロジェクト）

### （4）「まんで願子育て・子育て（※） 応援」プロジェクト

～子育て+子育て（子どもが「自らも育っていく力」を全面サポート～

#### 0 百眼百考会議での議論

「町内にある遊び場（公園）を知らない。」

⇒まずは、町内にある遊び場（公園）をPRし、十分活用してもらう取組みから始めるべき。

「いま町が取り組んでいる子育て支援は、充実しており、これらを継続してほしい。」

⇒子育て支援の充実は町にとって大きな魅力であり、現状をいかに継続していくかの方策を考え、ていく必要がある。

#### ●数値目標（平成31年度）

指標	数値目標
“子育て”しやすいと感じる子育て家庭の割合	90%

子育て支援に限らず、古くから定住している住民（高齢者中心）と移住してきた住民（子育て世帯中心）が必ずしも上手く交流できていない。今後、子育てしやすい町とするためには、“交流”と“融合”が必要。例えば、放課後児童クラブの中に教育の観点を。

#### 1 基本的な方向

①「日本一子どもを産み育てやすい町」の実現をめざして

子育て支援に係る手続きをワンストップで提供し、各分野の専門員を配置することで、効率的な支援を図り、併せて子育てへ

の不安と負担の軽減策をきめ細かく実施します。

② 子育て世帯の声が反映できる支援体制の構築

出生時から継続的に同じ専門員が対応することで、戸別訪問や電話対応により、家族と子どもの変化を把握し、その上で、その家庭に合った支援を行うことができ、子どもの健康づくりをサポートします

#### 2 基本目標

結婚、妊娠から出産、子育て・子育てまでの“切れ目ない”支援を行う。



総合運動公園と遊び場



ママカフェ





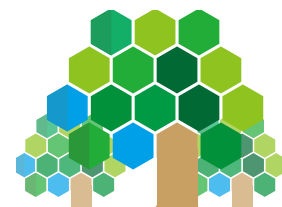
3 具体的な施策と重要業績評価指標

分類	住民・地域としての役割 (お願いする事項)	行政としての役割	平成31年度達成目標
<p>① 子育て応援 (学び場づくり)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の身近な公園を知り、利用する。</li> <li>・公園の管理（清掃、草刈、不審者等対策）に参加する。</li> <li>・遊び場マップ作成のための必要な情報を提供する。</li> <li>・大学生、小学生と町を探検して、遊び場（公園）マップづくりに参加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大学生や小学生と共同した町内の遊び場（公園）マップづくりを行う。また、必要に応じて、既存の農村公園も利用できる環境に整える。</li> <li>● マップ作成後の町民の反応を見て、利用者を対象としたアンケートでニーズを抽出した上で、真に必要なとされる遊び場づくりに着手する。 (具体的取組)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊び場（公園）マップ作成</li> <li>・農村運動公園整備</li> <li>・遊び場づくり事業</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て世帯を対象とした遊び場（公園）マップの認知度：50%</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子どもの生活体験（遊び）の中で多様な価値観に触れる機会を提供する。 (具体的取組)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後英語活動推進</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後児童クラブ定員稼働率：100%</li> </ul>



「子育て」とは...？

一般的に「子育て」は親が子どもを育てることに対して、「子育て」は『子ども自身が成長すること』という意味で使われます。三木町では、「子育て支援」は、子どもを育てる親や家庭への支援、「子育て支援」は、自ら成長する子どものための支援としています。



## 第2 概要（4つの重点プロジェクト）

分類	住民・地域としての役割 (お願いする事項)	行政としての役割	平成31年度達成目標
② 子育て環境の整備	<p>・子育て家庭や身近な高齢者等との交流を図る。</p>	<p>● 子育て世帯のニーズに応じた、“切れ目ない”支援を行う。 (具体的取組)</p> <p><b>保育</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まんでがん未来サポートセンター (三木町保健センター内)</li> <li>・ママカフェ</li> <li>・こんにちは赤ちゃん事業 (乳児家庭全戸訪問)</li> <li>・乳幼児一時預かりサービス</li> <li>・病児・病後児保育サービス <ul style="list-style-type: none"> <li>↳ 病児お迎え(受診代行)サービス</li> </ul> </li> </ul> <p><b>保健・医療</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療費助成(中学3年生まで)</li> <li>・乳幼児健診(5歳児健診)</li> </ul> <p><b>教育</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後児童クラブ</li> <li>・第2子以降の学校給食費半額助成(小・中学校)</li> <li>・保育所・幼稚園の保育料・授業料第2子半額、第3子以降無料</li> </ul> <p><b>育児・家事支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援券交付</li> <li>・子育てホームヘルプサービス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き定住したい子育て世帯の割合：80%</li> <li>・0歳～15歳の転入者数：150人/年(H26年実績：132人)</li> <li>・保育所待機児童数：0人</li> </ul>
	<p>・男性が家事・育児に積極的に携わることを家族・地域が後押しする。</p>	<p>● 男性が家事・育児にいきいきと携わることができるよう、情報発信や条件整備を行うことで、家庭内の子育て環境の充実を図り、あわせてワークライフバランスの実現を図る。 (具体的取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イクメン推進(養成)事業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男性の育児参加時間：50分/日(H23.10香川県平均45分/日)</li> </ul>



### 3 情報の共有と発信

#### (1) 地元の魅力再発見

～住民が伝える背伸びなしの

その土地らしさをカタチにする～

#### 0 百眼百考会議での議論

『町の魅力が共有できていない』『実は、町のことをよく知らないかもしれない』

⇒三木町には魅力的な素材が多くある。それが当たり前の存在となっていて、町民も職員も魅力と認識していない。

町民や職員の「当たり前」が、外から見ると町の強みや特徴と感じられることが多い。

『広報誌は読みたいと思わない』

⇒行政から発信する情報の多くは、難しい、固い。発信者側の自己満足となって町内外の人たちに伝わらないことが多い。

#### 1 基本的な方向と目標

町民一人ひとりが町の魅力を再認識（再発見）し、三木町のことを改めて好きになり、三木町民であることを誇りに思えるようにする。



町民一人ひとりが  
「三木町の魅力の伝道師」  
となる！



#### 2 具体的な施策（再掲）

##### 【移住・定住対策】

- 三木町への移住を具体的にイメージしてもらうための取組み。

（具体的取組）三木町周辺マップ20min. (My Car バージョン) 作製

##### 【まちづくり】

- 住民の意見や考え方を反映したまちづくりを行うことで、住民が町の魅力や課題といった議論を通じて自分のまちを見つめ直す取組み。

（具体的取組）

- ・百眼百考会議運営

- まちのトピックスを広報誌等で積極的に情報発信するとともに、住民が住民記者となりまちの魅力をSNS等を通じて発信する取組み。

（具体的取組）

- ・広報誌発行
- ・三木町魅力発信力向上

##### 【まちのしごと】

- 三木のしごと情報の収集・発信  
三木町内の事業所等が抱える現状と課題を調査することで、雇用のミスマッチをあぶり出し、

調査内容を生かして雇用情報を効果的に発信する取組み。

（具体的取組）

- ・みき仕事情報調査・発信

##### ● 学生への情報発信

町内事業所の工場見学や多種多彩な職場体験、より実践に近い形のインターン等を効果的に行う取組み。

（具体的取組）

- ・みきの職場まるわかり事業

##### 【若者・にぎわい】

##### ● 地産作物等の販売促進

地産の農産物や、香川大学農学部で研究された新品種の農畜産物を販売PRできる場の創出を推進する取組み。

（具体的取組）

- ・三木らしいカフェ

##### ● 町内に潜在している魅力的な店舗等を町内大学在学中の学生等とともに対外的にPRする取組み。

（具体的取組）

- ・「町内大学生が選ぶ名店ガイド（仮）」発行

##### 【子育て】

##### ● 大学生や小学生と協同した町内の遊び場（公園）マップづくりを行う取組み。

（具体的取組）

- ・遊び場（公園）マップ作成

住民全体の「にぎわいづくり」  
「獅子たちの里 三木まんて願。」





## 第2 概要（情報の共有と発信）

(2) まちの魅力・情報の発信  
～「行政はむずかしい」そう言われる時代を終わりにするために～

### 0 百眼百考会議での「声」（課題）

『まちの魅力が活かしきれていない。伝えきれていない。』

⇒ 三木町はどのような町で、どんな特徴があるのか、対外的な発信ができていない。三木町への移住を考えている人への情報も不足。

### 1 基本的な方向と目標

子育て支援をはじめとする「三木町の魅力や取り組み」を全国に向けて発信し、三木町が全国で話題になり、三木町の“ファン(準移住者)”を増加させる。



三木町への移住者を増加させる！

### 2 具体的な施策（再掲）

#### 【移住・定住対策】

● まちの魅力を効果的に情報発信するための戦略を策定する取り組み。その一環で、主に移住希望者をターゲットとした特設PRサイトを構築する。

(具体的取組)

・三木町魅力発信力向上

● 三木町に住民票がなくても、三木町とのつながりを求める人たちを増やす取り組み。

(具体的取組)

・ふるさと住民票活用

#### 【まちづくり】

● 「希少糖の里 みき」地域ブランド化

希少糖の町内での活用事例について、町内外に対して周知を図るとともに、産学官協働のもと、希少糖関連事業所へのインターンを促進するなど、若年代が

希少糖に接する機会を創出する取組み。

(具体的取組)

・地域ブランド戦略

● スポーツ施設を活用したにぎわいづくり

三木町総合運動公園を中心に三木町内各種スポーツ施設と連携し、合宿地として誘致する取組み。

(具体的取組)

・総合運動公園施設整備

・トップスポーツチーム等誘致



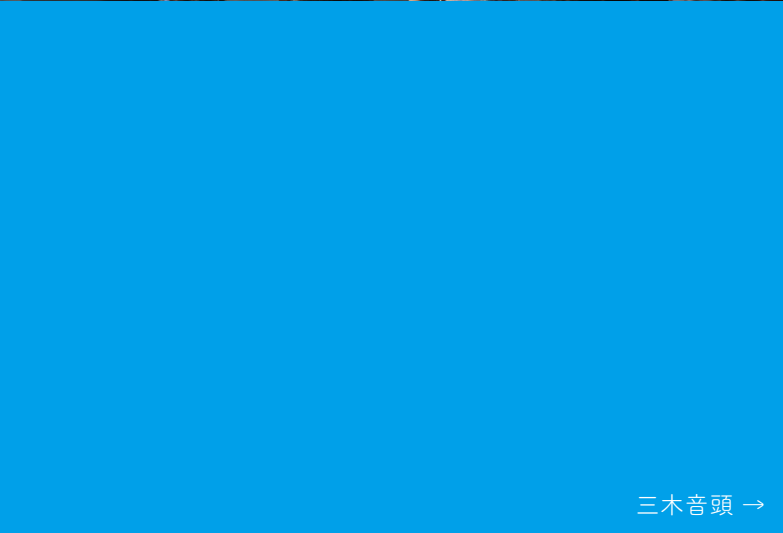
町民大運動会







← 三木町キッズ獅子舞



三木音頭 →



← 躍動獅子舞



コスプレイヤー in 三木まんで願。 →

【参考資料】

(1) 総合戦略策定のプロセス

平成 27 年度百眼百考会議  
(総合戦略策定に向けた住民協議会)

1 委員

- ◎：座長
  - ：座長代理
- (敬省略、50 音順)

第 1 分科会：◎岡本正、○筒井弘美、佐々木健太、多田加代子、谷本美重子、濱谷英昭、藤川智春、山中泰一

【コディネーター】石井聡（逗子市秘書広報担当課長）

第 2 分科会：◎多田理恵、○小倉敏江、石濱好一、熊野正美、香西正明、河野博美、泰田憲賢、橘香里、矢野ゆみ子

【コディネーター】荒井英明（厚木市教育委員会社会教育部長）

第 3 分科会：◎森本貴行、○橋本朗、串田悦子、佐野友洋、白井祐介、高野規代美、富田真澄、林万理子、平田昌三、藤本朱、山田伸彦

【コディネーター】山根晃（足立区教育委員会子ども家庭部子ども家庭課長）

第 4 分科会：◎白井智、○田野雅子、○夏目佳奈、芦沢直之、古賀友亮、杉原幸一、杣美緒、藤澤誠司、山下麗奈、横山陽子

【コディネーター】伊藤伸（構想日本総括ディレクター）

2 開催日時

(総協議時間 27 時間 20 分)

- 第 1 回 平成 27 年 4 月 30 日(木)  
19 時～ 20 時 30 分
- 第 2 回 平成 27 年 5 月 24 日(日)  
13 時 30 分～ 16 時  
外部事業ヒアリング  
平成 27 年 6 月 13 日(土)  
9 時 20 分～ 16 時 30 分、  
平成 27 年 6 月 14 日(日)  
9 時 30 分～ 16 時 40 分
- 第 3 回 平成 27 年 6 月 27 日(土)  
9 時 30 分～ 12 時
- 第 4 回 平成 27 年 7 月 12 日(日)  
13 時 30 分～ 16 時
- 第 5 回 平成 27 年 7 月 25 日(土)  
10 時～ 12 時 30 分
- 第 6 回 平成 27 年 10 月 9 日(金)  
19 時～ 20 時 30 分

3 分科会テーマ

- 第 1 分科会：移住促進・受入
- 第 2 分科会：行政と地域組織の役割
- 第 3 分科会：地場産業と雇用
- 第 4 分科会：結婚・出産・子育て  
など若年世代対策

三木町総合戦略策定委員会  
(委員長：福嶋浩彦)

1 委員



福嶋 浩彦

(中央学院大学教授、前消費者庁長官、元我孫子市長)  
自治体と国双方の行政トップを経験。行政のスペシャリスト。



立谷 光太郎

(株式会社博報堂 執行役員)  
地域創生ビジネス推進室長として、地方自治体への政策立案等を支援。



塚本 恵

(民間企業)

各業界キーパーソンとの良好なリレーションシップを図る日本屈指の政策渉外のプロフェッショナル。



津田 大介

(ジャーナリスト /

メディアアクティビスト)

ソーシャルメディアを利用した新たなジャーナリズム構築の先導者。テレビのコメンテーターや司会者・解説者としても活躍。



中田 華寿子

(ライフネット生命保険株式会社  
常務取締役)

インターネット生保として初の上場を果たした先駆企業のマーケティングスペシャリスト。

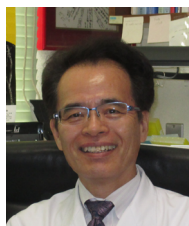


伊藤 伸

(構想日本総括ディレクター)  
元内閣府参事官。年間 50 程度の自治体と連携する特徴を活かして現場からの社会変革を目指す。







徳田 雅明

(香川大学副学長)

希少糖の応用開発を推進、国際化にも明るい。



宮武 伸行

(香川大学医学部准教授)

生活習慣病予防、改善を通じた  
“健康づくり”。



岸 紅子

(NPO 法人日本ホリスティック

ビューティ協会 代表理事)

セルフケアのスペシャリスト。女性と  
子どもの心身の健康を啓蒙する団体の代表。



堀岡 伸彦

(山梨県福祉保健部 参事、

医務課長、医師)

厚労省より出向。山梨県では  
新たな産後育児支援体制を構築。

## 2 開催日時(総協議時間:10時間)

- 第1回 平成27年6月17日(水)  
10時～12時
- 第2回 平成27年8月18日(火)  
11時30分～13時30分
- 第3回 平成27年9月7日(月)  
14時～17時
- 第4回 平成27年10月19日(月)  
15時30分～18時30分

## ○まんで願いいきタウン構想策 定委員会 (委員長:浜田敬子)

### 1 委員



浜田 敬子

(株式会社朝日新聞出版

アエラ編集部編集長)

女性や雇用の問題、同時多発テロを取材。

AERA「ワーキングマザー1000人委員  
会」を主宰。

- 伊藤 伸 (構想日本総括ディレクター)
- 徳田 雅明 (香川大学副学長)
- 宮武 伸行 (香川大学医学部准教授)
- (オブザーバー)
- 今出 洋子 (三木町愛育会)
- 大見 和美 (三木町愛育会)
- 高重 裕子 (「ぼちぼち文庫」を自宅で開設)
- 高澤 苟太 (シニアクラブ天枝(あまえだ))
- 中川 和樹 (氷上(ひかみ)おやじの会)
- 宮本 悟 (氷上(ひかみ)おやじの会)

## 2 開催日時

(総協議時間:9時間30分)

- 第1回 平成27年8月3日(月)  
13時～15時
- 第2回 平成27年9月1日(火)  
10時～12時
- 第3回 平成27年9月29日(火)  
14時～17時
- 第4回 平成27年10月13日(火)  
11時～13時30分

## 三木町まち・ひと・しごと創生 プロジェクトチーム

### メンバー

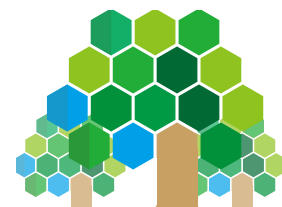
- (政策課) 飯間 和子 / 富田 浩之 /  
上原 貴宏 / 松本 裕司 / 村尾 隆明  
/ 高橋 昌孝
- (教育総務課) 横山 敬二
- (産業振興課) 多田 英孝
- (地域包括支援センター) 溝淵 明美
- (まんでがん子ども課) 馬場 正光  
/ 道官 丈晴 / 溝淵 勝久  
(保健師) 松家 真由美  
(助産師) 横井 まゆみ  
(保育所) 平尾 千代美  
久米 美佳  
(一時預り保育士) 高重 恵  
漆原 里佳

### パブリックコメント (意見募集)

「三木町まち・ひと・しごと創生  
総合戦略(案)の策定にあたり、  
町民の皆さまからご意見を募集し  
たところ、ご意見はありませんで  
した。

### 募集期間

平成27年10月23日(金)～  
平成27年10月28日(水)17時

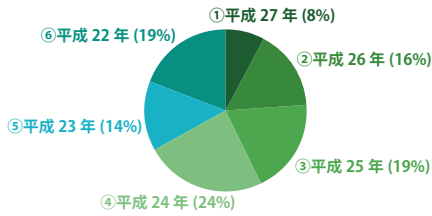


参考資料

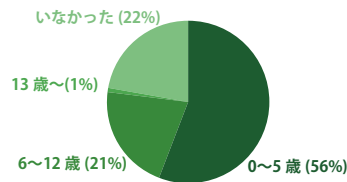
(2) 子育て世帯へのアンケート調査結果(平成27年9月実施)

- ・過去5年間(平成22年9月1日以降)に転入された子育て世帯が対象
- ・アンケート回答世帯: 352世帯

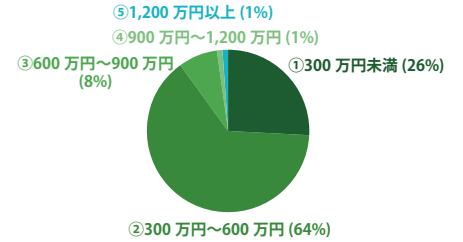
① 転入してきた年(平成22～27年)



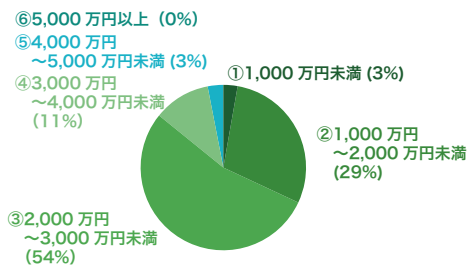
② 転入時の子どもの年齢



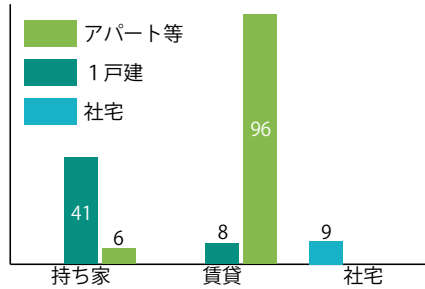
③ 転入時の世帯収入



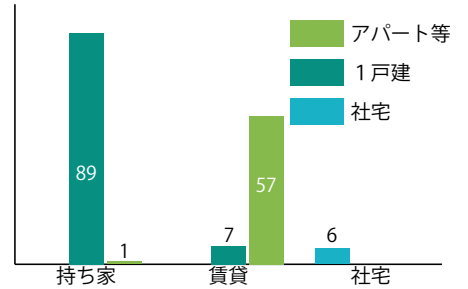
④ 住宅購入者の住宅購入価格



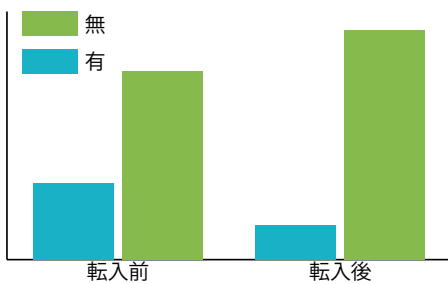
⑤ 転入前の住居形態



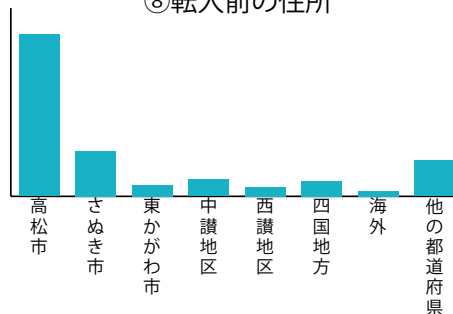
⑥ 転入後の住居形態



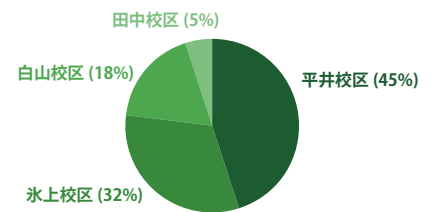
⑦ 転入前後の親との同居の有無



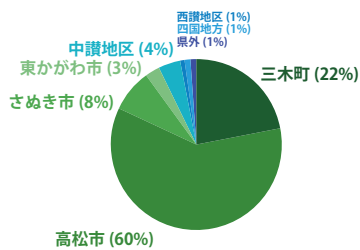
⑧ 転入前の住所



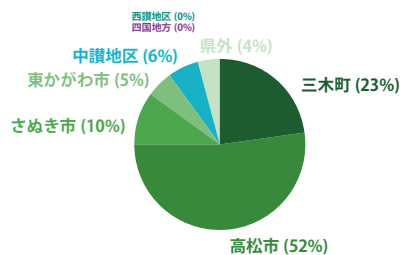
⑨ 転入後の住所【学区区】



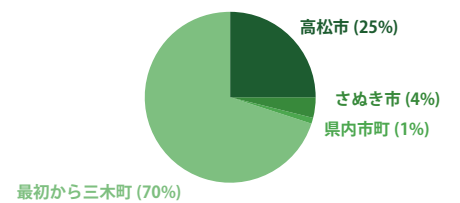
⑩ 世帯主の勤務先(転入時)



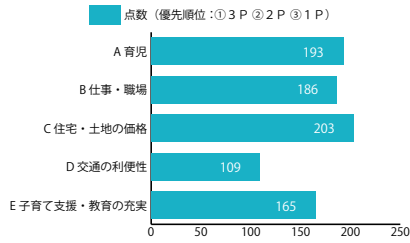
⑪ 配偶者の勤務先(転入時)



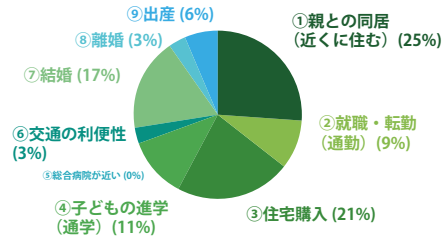
⑫ 転入の際、検討した市町村



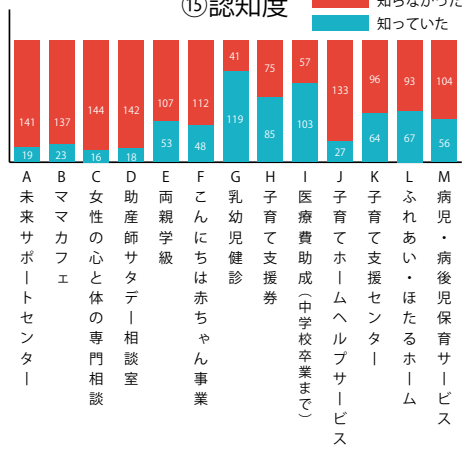
⑬三木町に住むと決めた際の優先順位 (3つまで選択)



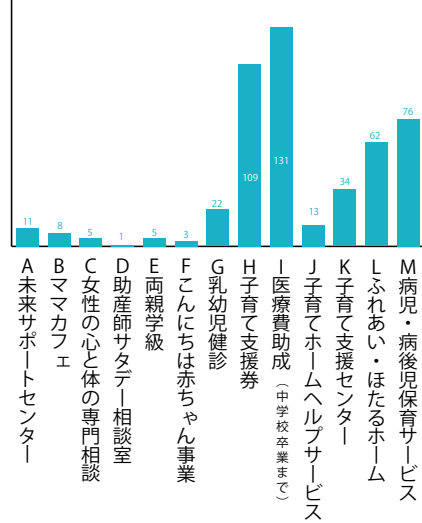
⑭転入のきっかけ (複数回答可)



⑮認知度



⑯これから転入される方へのおススメ





三木町まち・ひと・しごと創生総合戦略

# 三木町まんで願大作戦

発行 / 三木町

発行日 / 平成 27 年 10 月

編集 / 三木町政策課

三木町大字氷上 310 番地 TEL 087-891-3302